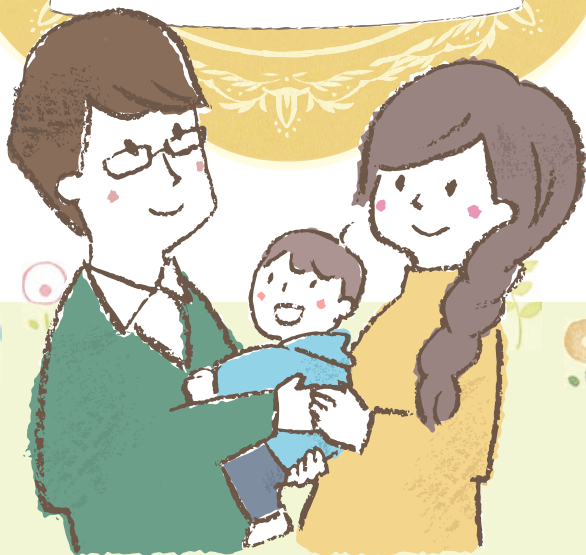




OKAYAMA UNIV.

岡山大学は
パパの育児を
応援します III

岡大パパの育児エッセイ集



はじめに

高橋 香代 1
ダイバーシティ推進本部長／理事・副学長（企画・評価・総務担当）

岡大パパの育児エッセイ

子供たちと一緒に自然に親しみ遊ぶ

学長 榎野 博史 2
学長

育児もMutual Respect(相互尊重)の気持ちで

理事 神崎 浩 4
理事・副学長（国際担当）

小学校中学年の子育てあれこれ

教員 木村 功 6
大学院教育学研究科 教授

育児と記憶

教員 竹内 秀明 8
大学院自然科学研究科（理）准教授

普段の子育ての様子と子育てについて思うこと

教員 珠玖 隆行 10
大学院環境生命科学研究科（環）准教授

育休を取得して

教員 岩瀬 敏秀 12
大学院医歯薬学総合研究科（医）助教

お父さん今日は？からお父さん明日は？

職員 阿藤 俊二 14
教育学研究科等事務部 事務長

育児を楽しんでいます

職員 柴田 裕巳 16
研究交流部産学連携推進課 総括主査

たなかけの日常

職員 田中 邦明 18
学務部学務情報システム開発室 主査

イクメンへの道は未だ険しく

職員 井田 敏明 20
大学院医歯薬学総合研究科等総務課 主査

育休を取得して、気づくこと。

職員 和田 典久 22
岡山大学病院経営・管理課 主任

我が家の子育て

職員 平尾 真也 24
総務・企画部総務課 事務職員

感謝

職員 岩瀬 大介 26
学務部入試課 事務職員

私が育児で感じたこと

職員 堀川 皓弘 28
岡山大学病院総務課 事務職員

育児はオペレーションか？

職員 白神 裕之 30
岡山大学病院 看護師

おまけ1 石川遼君は「聴き流すだけでいい」と言っていますが…

32

おまけ2 岡山大学の育児支援について

34

あとがき

次世代育成支援室 室員 36

編集後記

寺澤 孝文／次世代育成支援室長／大学院教育学研究科 教授 37

はじめに

もう十年以上前になると思いますが、教育学研究科の男性教員が、お子さんを自転車の後ろの席に乗せて送り迎えをしていたり、お子さんを連れて学内を歩いていたりする姿をよく見かけていました。お子さんたちは、ごく自然な顔で、特にうれしがっている風でもなく自転車の上から景色を見ていたり、ちょこちょこパパの後をついて歩いていたりする姿を、微笑ましく感じました。パパの子育てが、日常となってきたことを感じたものです。



岡山大学では、平成21年度に「ダイバーシティ推進本部」を設置し、その一つとして「次世代育成支援室」を設け、教職員がより子育てをしやすい職場環境の構築を目指し、様々な取組を進めています。大学の業務に加えて育児という大切な仕事を抱えた教職員をどのように支え、その能力を十分に発揮できるような仕組みをどのように作っていくかは、本学の大きな課題です。ワークライフバランスが充実している職場では、個人とその家族の安心感や幸福感が高まるだけでなく、働くことへのモチベーションも高まって、柔軟性のある考えが生まれやすいといわれています。子育て支援は単なる福利厚生ではなく、個人と組織と社会にとって有益な営みといえます。

「岡大パパの育児エッセイ集 Vol. III」の発行は、本学の男性教職員の育児を応援することで、育児がしやすい環境作りや、育児参加への動機づけを図るだけでなく、育児に関する情報の共有による豊かな子育てにつなげていくことを目的としています。今回榎野学長や神崎理事をはじめ、沢山の教職員の方々にエッセイを執筆頂きました。それぞれのエッセイでは、子育てのご苦労と大きな喜びが語られており、読み応えのあるエッセイ集になったと思います。子育ては子どもたちのユニークで多様な考えを受け入れ、愛情を持ってそれに対処し、その行く末の幸せを願うものであり、まさに教育の原点であると思います。その意味では、子育ては、直接的であれ間接的であれ教育に携わる私たち教職員にとっては、活力の源になることはもちろん、自らの能力を高める大きな機会になると思います。

それでは、岡山大学のパパの皆さんの、苦労もあるけれど喜びもいっぱいという子育てぶりをお楽しみください。

ダイバーシティ推進本部長／理事・副学長（企画・評価・総務担当）

高橋 香代

岡大パパの育児エッセイ

子供たちと一緒に自然に親しみ遊ぶ

学長 榎野 博史

岡山大学長

私は子育てというよりは、子供たちと一緒に自然に親しみ遊んだ。我が家に恒例の年中行事が3つあった。春の花見、ゴールデンウィークのキャンプ旅行、夏の海水浴であった。

花見は日本人の文化とも言えるが、半田山に妻の手作りの弁当を持って出かけた。親は花を楽しむが、子供たちは遊ぶのが楽しみで弁当が終わるやいなや、広場でボール遊びに興じた。私もそれに加わって遊んだ。

キャンプでは県北のキャンプ場に毎年場所を変えて行った。私の号令の下に皆でテントの設営や飯盒炊爨を行った。子供たちは火を熾したり、カレーを作ったり、普段はあまりしないお手伝いを喜んでしてくれた。この時期は季節の変わり目で暖かくて晴れた年は最高であったが、雨が降って寒くてたまらない時には皆で体を寄せ合ってテントで寝たこともあった。ヤマメの掴み取りに興じて、取ったヤマメを塩焼きにして食べたりもした。「探検に出かけるぞ!」と言って山歩きも楽しんだ。長男がもう歩けないという三男を負ぶってくれ、子供たち同士で助け合ってくれた。それも今では良い思い出である。

夏の海水浴には山陰方面での民宿が多かった。着くまでに車の中で、子供たちにクイズを出したり、泳ぐ注意事項を言わせたりして、気分を高めた。海に着くと準備運動をして、海に入った。山陰の海は波が高くゴムボートで波乗りをして

楽しんだ。カニやイカ焼き、岩蠣など山陰の味覚も魅力であった。夜にムカデが出て大騒ぎをしたこともあった。ある年は台風が接近しており、行くのを迷ったが、決行した。台風は南から来ていたので行ってみると山陰では風であっ



た。夜半より暴風雨となり、民宿ごと吹き飛ばされるのではと眠れなかったが、朝には通過していた。いつもよりは波が高かったが、海に入れた。

子育ては妻に任せきりだった。思い起こしてみると、ただ一度だけ後輩に褒められたことがあった。長男が6歳、二男が5歳、三男が2歳の夏休みであった。家内がピアノのレッスンで手が離せないので、子供たちの面倒を頼まれた。暑かったので出崎海水浴場に連れて行った。三男はまだ泳げないので片手で抱き、二男の手を繋いでゆっくりと沖に向かって歩いて行った。しかし、長男は怖いもの知らずで、どんどん沖に進むので慌てて後を追いかける。二男は背が足りなくなりゴボゴボと言い出した。二男をもう一つの手で捕まえる。今度は長男の背が足らずゴボゴボと言い出した。二男を浅瀬に置き長男を慌てて捕まえて岸に引き上げた。それを目撃していた後輩に偶然出会い、呆れられるやら、感心されるやらであった。

岡大パパの育児エッセイ

育児も Mutual Respect (相互尊重) の気持ちで

理事 神崎 浩

理事・副学長 (国際担当)

結婚からほぼ30年がたち、二人の子供（娘と息子）も成人し、パパと呼ばれたことがない私が、このエッセイを書くのに適任ではないかもしれませんが、私の経験から思うことを書きます。短い話なので最後まで読んでください。

私は幸いにも子供の出産に二回とも分娩室で立ち会え、その時に大きな感動を受けたと同時に、「出産は大変」でも「母は強し」と思いました。私は決して現代風イクメンではありませんでしたが、私が家にいる時はできるだけ子供のおむつを変えること（一人目は、私が生まれた時に使っていた布おむつを使ったため、妻はその洗濯が大変でした。）、お風呂に毎日入れるように努力したように記憶しています。（娘が4年生になり、妻からもう一緒に入るのはやめたらと言われた時は寂しかったのですが…。）また、近場ばかりでしたが、家族4人で

いろんなところに出かけたのもいい思い出ですし、子供を外に連れて出ることが、妻にとってもよかったのではと勝手に思っています。

さて、私が子育てについて個人的に思っているのは、周りの夫婦のことは参考になることもあるけれど、やはり人間には個性があり、それが夫



夫婦ペアとなると様々な組み合わせがありますので、自分たちにあった育児をしていくことが大切だろうということです。また、

- ・人間は一人で生きられず、夫婦で育児をしていくことは幸せにつながる。
- ・夫婦は別人であり、性格は同じではない。
- ・男性と女性に性差はあり、全く同じことはできない。

ということから考えますと、何をしたらイクメンかではなく、育児のため何をしたらいいかをパートナーと少しでも相談して育児に関わることができたら、パートナーにイクメンと思われることにつながるのではないかと思います。

私は、大学の恩師から Mutual Respect (相互尊重) を大切にすれば、素晴らしい産学協同研究をすることができるかと教わり、それを肝に銘じて大学教員生活を過ごしてきましたが、夫婦の関係もそうだろうと思います。パートナーのことを尊重し、育児をすれば、きっとお互いに通じる部分生まれ、そうなればイクメンと自覚できる場面も多くなると思います。

子育て真最中、これから子育て予定の皆さん。育児をすることはその時は大変、しかしその経験は、必ず何らかのいい形で自らに帰ってくると思います。何事もそういうものですよ。完璧なイクメンなんて誰もなれないと思いますが、いい経験を積み重ねてください！

岡山大学に、パートナーも子供も大事に思う教職員が大勢出てくることを期待したいと思います。



小学校中学年の子育てあれこれ

教員 木村 功

大学院教育学研究科 教授

前の冊子に育児体験を書かせていただいてから、はや5年が経過しました。一人息子は、現在小学校の中学年となり、幸い健康にも恵まれ元気に学校生活を過ごしています。その中でも、上・下級生を含む友人たちとの関係は最大の成育環境ですので、親としてもその環境の状態を常に気にかけてながら、毎日の様子を見守っています。どこのご家庭でも悩みの種であるゲームやTV、マンガなどの問題は、我が家も例外ではありません。

息子の友人関係は、男児中心ではありますが、学校、近隣、保育園時代の友人など、幅広く、喧嘩もしながら交流しています。小学校の児童たちは、保護者の方針で、放課後を塾や習い事で毎日忙しく過ごす児童が多いようです。やり過ぎるとバーンアウトが心配なので、息子の習い事は2つにしていますが、小学校は帰国子女や英語教育に熱心な家庭の子供が多く、息子などは英語を習わない少数派となりました。岡山では、公立校でも小学校5年生になると殆どが塾に入ると聞いています。今さらながら、薄暗くなるまで近所の子どもたちと遊んでいられた、受験とは無縁だった自分の小学生時代との距たりに驚かされます。

いずれ高学年に上がれば、息子も同じ道を歩むことになるのですが、今は仲の良い友だちと一緒に外で遊んだり、プールに行ったり、キャンプに行ったりと、遊び中心の

人間関係ですが、競争よりもまずは、横のつながりを大切に
して、今の時間を過ごして欲しいと考えています。

息子の交友には、ママ友つながりにも支えられています。
学校行事に参加することで母親同士のネットワークを作り
上げ、子どもたちもそこに加わることで、親同士・子ども同
士の人間関係が相互的に形成されているのです。このよう
な育児ネットワークは昔からあるものだと思うのですが、仕
事中心の男親にはなかなか真似のできないもので、ありが
たく思います。

親ばかりでなく、最近は母方の祖父母の影響で、釣りに行
くようになり、倉敷市の玉島の海に連れて行って貰って、タ
コやハゼを釣ったりしています。
私はインドア派なので、アウトド
アに詳しい祖父母の存在は、大
変助かります。かくいう私は、
トランプや将棋・オセロの相手
や、韓国の時代劇ドラマの解
説者として、もっぱら知的(?)
部門を担当していますが、最
近では、鉄棒の逆上がりをマ
スターさせました。一人で何
役も無理にこなすよりも、自
分のできる範囲で子どもの
傍にいて、必ず触れ合うよう
に努めています。



岡大パパの育児エッセイ

育児と記憶

教員 竹内 秀明

大学院自然科学研究科(理) 准教授

私は2015年4月に岡山大学に着任して、単身赴任6年目になります。名古屋に7歳の娘、妻と義母が住んでおり、毎週末に家族の元に新幹線で帰る生活を続けています。2010年10月に娘が誕生した時は、東京都八王子市で同居しており、翌年8月に妻が名古屋に転勤するまで、毎日育児をしていました。娘が誕生した時は、私の研究が軌道に乗り始めた頃であり、科研費申請締切り直前であり、また論文投稿準備に追われていた時期でもありました。その中で、夜9時から朝3時に妻と交代するまで、ミルク、オムツ替え、寝かしつけを2時間おきにする生活がスタートしました。当時は仕事と育児が重なって睡眠時間をほとんど取れない日が続いていたので、本当に大変だったと思うのですが、不思議なことに辛いことはすっかり忘れてしまい、ミルクの匂いと娘のぬくもりだけが温かい記憶として残っています。



このエッセイの依頼を受けて何か思い出さねばと思い、当時の保育園との連絡帳を読み返してみました。生後6～9ヶ月頃の私から保育園への連絡です。「4月20日(水)：4/15～4/18まで37.5度から38.0度まで熱が出て風邪をひいていました。初めての風邪でしたが無事に治りました。風邪をひくと娘は笑顔がなくなりほおとした顔になります。昼間に寝ていたせいか一日のリズムがくるって夜に頻繁に起きます。調子が悪そうでしたら連絡をお願いします」「5月9日(月)：寝返りが上手にできるようになりました。ハイハイはまだうまくいわずになぜか後進してしまいます。本人も納得できないようで大声を出しながら練習しています。日々できることが増えていき成長が楽しみです」「6月10日(金)：ハイハイで動いてつかまり立ちも初めて一人でした。深夜にベビーベットの柵につかまって立っていたので、落ちてしまうのではないかと思ってびっくりしました。まだ一人でごきげんで動き回っています」「7月20日(水)：最近、娘は空を飛ぶ鳥に興味を持ち始め、川原まで散歩に行くと一緒に座るとずっと鳥を目で追っています。まだ小さいのに遠くのものもよく見えるのですね。八王子生活もあとわずかになってしまい、一日一日を大切に過ごしたいと思います」これを読んで当時のことを少し思い出したのですが、辛い記憶は確かにすっきり抜け落ちています。私の専門は行動神経科学ですが、ヒトは育児時は脳に何かしらの変化が生じて、嫌悪記憶が抑制されるのではないかと思います(笑)。その後、娘と妻が名古屋に引越してからは、週末だけの育児となりました。娘も当時の記憶はありませんが、最初の10ヶ月で親子の絆を固く築くことができたように思います。

岡大パパの育児エッセイ

普段の子育ての様子と 子育てについて思うこと

教員

珠玖 隆行

大学院環境生命科学研究所(環) 准教授

この機会に私の普段の子育ての様子と、子育てに関して思うところを書かせていただければと思います。

家族構成は、妻、3歳の長男と4ヶ月の二男の4人家族です。妻は市内の民間企業に勤めており、現在は育児休暇中です。これまでそれほど子育てが大変だと思ったことはほとんどありませんでしたが、最近、二男の誕生によって、いわゆる「赤ちゃん返り」をした長男の子育てにかなり手を焼いています。ちょっとしたことで怒り、やってはいけないと言われることしかやらず、二男にちょっかいを出して泣かせたり、と1時間に1回のペースくらいで「コラー!!」と言うような状態が続いています。

おそらく、この記事の執筆をされている方は、積極的に子育てに関わっている、と周りが評価している方ばかりだと思いますが、私自身は子育てに積極的に関わっているつもりはなく、ある程度自分の裁量で仕事ができる私がか子育てに積極的に関わるのは自然だと考えています。多くの場合、子育てに関わりたいけれども、仕事の関係で関われないというケースが多いのではないかと思います。そういうことを考えると、このように子育てに関われる環境に居る私はとても恵まれていると思います。

この原稿の執筆依頼～執筆(8月～9月)の間、仕事の関係で家族と一緒にフィンランドに滞在する機会を得ました。子育て

てに関してフィンランドと日本では状況が大きく異なるので、その違いについて紹介したいと思います。

フィンランドはNokiaや教育で有名な北欧の小国ですが、子育てに関する社会保障制度が充実するとともに、お



母さんに優しい国としても知られています。男性の育児取得率は8割という驚異的な数字で、父親が子育てを「手伝う」という概念はなく、むしろ、父親が主体的に子育てをするようです。では、私達以上に子育てを楽しんでやっているか、というところというわけでもなくて、「子育ての合間に会社に休憩に行ってくる」といった冗談も言われているようです。ここまで父親が積極的な理由は、「男女平等」という感覚が自然に根付いているからだと思います。例えば、労働人口に占める女性の割合は、フィンランドが48%、日本が42%で、あまり差は無いように思えますが、フィンランドでは日本のように「職種に性別が紐づけされていない」「職業に対するジェンダーバイアスが無い」という根本的な違いがあります。私が滞在した研究所の男女比率もほぼ50%で、このような状況は日本の研究機関ではなかなか考えられません。男性の育児参加を進めるには、まずは「子育ては母親の仕事」というバイアスを取り除くことが第一歩でしょうか。

育休を取得して

教員

岩瀬 敏秀

大学院医歯薬学総合研究科(医) 助教

育休を取得した教員は珍しいらしい。事務の方にも育休を取得した男性医師は初めてと言われたように記憶している。期間は4週間と短い、得難い経験であった。育休中は仕事をしてはならぬとのことで、本務だけでなく、兼業にも行くことが出来なかった。そのため、子育てに専念することが出来た。

「専念する」という経験は育休ならではだろう。仕事から帰っての子育てでは、時間が限られていたり、体力的・精神的な余裕に乏しいこともあったが、育休中はゆっくり息子と妻と向き合うことが出来た。育休を取得したのは息子が月齢9ヶ月、彼女の育休が残り半年というタイミングで、復職後の役割分担をどうするかや保育園をどうするか等についてじっくり話し合った。保育園の見学や図書館での読み聞かせにも一緒に行くことが出来た。また、妻の受診等の際には一人きりで息子の相手をした。一緒に昼寝をしてくれる幸運な日もあったが、ワンオペ育児はなかなかしんどく、妻の帰宅を待ち望んでいたように思う。

「丸くなったね」と言われることが増えた。見た目もだが、性格が丸くなったのだろう。子育てに関わることで、他者の苦労を想像しやすくなったし、交渉の余地のない相手と粘り強く付き合う忍耐も身についた。子育てを行った世代へは尊敬の念が、子育て世代には応援する気持ちが強まった。うるさいだけだった電車内の子ども・赤ちゃんの声は元気な証拠だと思え

るようになった。

新たに子どもを授かるお父さんにはふたつ助言したい。ひとつは、自分のことは自分で出来る家事スキルを身に付けておくこと。子どもの世話という慣れない負荷でいっぱいいっぱい妻に余計な負担をかけないようにするためだ。もうひとつは、退院してすぐのうちからおむつ替えをすることである。最初のうちはうんちも臭くない(独特の臭いはするが)。そこで慣れておけば、臭くなくても交換できる。おむつを変えるくらいに相手をしていれば、自然と子どもは懐いてくれるだろう。

子どもは授かりものだ。せっかく授かったのであれば、その成長にも関わり、愛し、愛されるほうが楽しいと思っている。



岡大パパの育児エッセイ

お父さん今日は？からお父さん明日は？

職員 阿藤 俊二

教育学研究科等事務部 事務長

朝、起きた時「おはよう」の後に子どもたちから出てくる言葉、「お父さん今日は？」という皆さんは何を思い浮かべますか。「お父さん今日は何の日でしょう？」とか「お父さん今日は早く帰れる？」とか思い浮かぶ言葉はそれぞれのご家庭で違うかもしれません。実は我が家の「お父さん今日は？」はその後に続く言葉はありません。何故なら言わなくてもお互い分かっているからです。それは…どのご家庭でもある朝ごはんのメニューを指しているのです。何時ごろからこのような朝の会話が行われるようになったかは子どもたちに聞いても定かではありませんが、はっきりと言えるのは「お母さん今日は？」という言葉が我が家ではスタンダードではなく「お父さん今日は？」がスタンダードなことです。これは休日の朝、昼、晩にも通ずる言葉となっていて

「お父さん昼は？」
「お父さん晩は？」と続くのです。そういうと妻が何もしていないように思われるのでフォローしておきます。我が家は共働きであり、妻も仕事に誇りと責任を持っていますので、



その面ではフィフティ・フィフティですし、料理の腕前は私よりはるかに上だと思っています。それではなぜ妻が料理担当でなく私が担当しているかといいますと、子どもたちの勉強や習い事をはじめ、ありとあらゆる



ことを任せているからです。ちなみに私は料理だけでなく洗濯も担当していますし、小学校のPTA副会長もしています…関係ないか。そんなこんなで何が言いたかったといいますと子育ては夫婦がお互いを尊重しあいながら毎日を過ごしていれば自然と見ている子どもたちは伸び伸びと育ち、親をどうしたら楽にしてあげれるのだろうと考えることができるようになるのではないのでしょうか。そんな出来事が2か月程前から我が家で起っています。タイトルにあります「お父さん明日は？」につながります。3人兄弟の真ん中(小学校6年生女子)が朝ごはんを私が作ると言い出したのです。最初は一緒に作っていたのですが今は「お父さん明日は？」に対してメニューをお願いするだけで、おいしい朝ごはんができています。まだまだクオリティ(自分に比べて)は低いものの期待値はかなり高いレベルで今後を楽しみにしているところです。

岡大パパの育児エッセイ

育児を楽しんでいます

職員 柴田 裕巳

研究交流部産学連携推進課 総括主査

私の家族は共働きをしている岡山大学職員の妻と小学生5年と2年の娘2人の4人家族です。

今では夕食を作ったり宿題を見てあげるなどしていますが、子供が生まれる前は「子供が生まれたら育児をしよう。」という意識は持っていませんでした。長女が生まれると妻の育児や家事をサポートしようと思うようになり、次女が生まれた時に長女と1週間ほど2人きりで暮らす機会があって、育児をしようとする意識が強くなりました。

家事や育児は妻が主体で行っていましたが、妻が保育園から遠い鹿田地区へ異動したため私が保育園への送迎を担当することになったり、妻が仕事で帰宅時間が遅いと早めに帰宅できる私が晩御飯を準備するようになりというように、必要に迫られて家事や育児への参加が増えていきました。早く帰宅させていただ



いているので上司や同僚には感謝です。

私が家事や育児をしていて感じるのは「1人でやるとストレスが溜まる!」です。共働きなので出来る方が行う考えでいれば良いのかなと思います。手抜きも必要でなるべく楽をすることを優先したいです。

最近ではお風呂の前に子供達とぬいぐるみを使った遊びをすることが日課となっています。子供を楽しませることが自分にとっても楽しみです。女の子なので何時避けられるようになるかドキドキしながらも、向き合う時間を大切にしていきたいです。



岡大パパの育児エッセイ

たなかけの日常

職員 田中 邦明

学務部学務情報システム開発室 主査

毎朝5時半に起床し、昨晚の食器類を棚に仕舞ってから朝食と子供達の弁当作りが私の朝の仕事です。その間妻は子供達の学校・保育園の支度と衣類の洗濯。朝食が出来上がった頃には、(多い時で)3回目の洗濯が終了します。家族揃っての朝食を済ませ一斉に洗面所へ。狭い洗面所には全員が競うように歯磨き&洗顔「はよう代わって!・今やりよんじゃ!・まだあ?・うるさい!」といった毎日同じ言葉が飛び交います。NHKの教育番組を時計代わりに通学通園出勤の支度開始。長女(中学)→長男(高校)→妻(鹿田)→私&末子(津島)の順で飛び出すように出発。通勤車中では教育番組の歌を末子と二人で熱唱しながら通勤。そんな毎日を長男の保育園時代から十何年続けています。

周りからは「よく家事をするお父ちゃん」と言われることがありますが、共働き世帯ではそんなことはありません。むしろ、家事・育児・仕事をこなしている全国の母親の方がスーパー母ちゃんなわけで、そのスーパー母ちゃんがどれ



か一つでも放棄したら我が家はどうなる?ということ考えた時(約15年前)、自然と体が動きました。

妻には洗濯担当、私は料理担当を、育児は半々という分担がいつの間にか決まり、今やそれぞれがエキスパート。妻は朝だけで洗濯を3回もこなせるようになり、私は一人暮らしの時には炊飯器すら持ってなかったのに、冷蔵庫の食材を見ておかずを数品作れるようになりました、クックパッド万歳!

家事・育児を分担しあうことで、時間的・精神的に余裕が生まれ、親子でのコミュニケーションも増えました。家族揃っての食事、洗面所に全員が集う朝の支度時間、風呂に入る順番を決めあう時間、戦争のような忙しい時にちょっとしたハプニングで皆が笑う。毎日がまるでコントのよう。

末っ子LOVEな長男17歳。突然歌いながら踊りだす長女14歳。お兄ちゃんの膝の上に座るのが大好きな末っ子5歳女兒。負けじとお兄ちゃんの膝の上に座りたがる母親....他人から見るとおバカな集団ですが、大切にしたいと思う家族です。



岡大パパの育児エッセイ

イクメンへの道は未だ険しく

職員 井田 敏明

大学院医歯薬学総合研究科等総務課 主査

「なんて日だ!」とお笑いコンビのセリフを叫びそうになったのはかれこれ7年ほど前の夏の日の朝でした。保育園に連れて行く途中に調子が悪くなった長男をだっこして歩きだすと酸っぱい臭いとともに生暖かいものが肩に…。長男が保育園に通っていた時は保育園への送り担当で、こうした悲劇に見舞われることもありましたが、道中の畑の野菜が大きくなっていく様子を見たり、川で泳ぐ魚を見つけたり、子どもとふれあう貴重な時間を楽しんでいました。

核家族かつ夫婦共働きですので育児にはできるだけ参加しようと心がけてはいましたが、いかに妻に頼る部分が多かったのかを実感したのは、妻が二度に渡り入院した時でした。一度目は病気入院で長男は4歳でした。それまでは子どもの迎えの時間を睨みながら仕事をする必要は無かったわけですが、毎日締切に追われているような日々が突然始まり、なんとか迎えの時間に間に合わせようと、突然の雷雨で土砂降りの中、ズブ濡れになりながら自転車を走らせたこともありました。二度目は二男を妊娠中の妻が、妊婦高血圧症候群により急遽入院することになった時です。ちょうど長男が保育園の3泊4日のキャンプに行く直前だったため、妻から携帯メールで指示を受けながら、持たせる着替やお弁当の食材の買い出しでスーパーをあちこちかけずり回ること。当日朝5時に起きて冷凍食品の力も借りながら慣れない手つきで弁当を作りあげ、なんとか

長男を送り出すことができたのですが、キャンプから帰ってきた担任の保育士さんから「ボリュームがありすぎて食べ切れてなかったですね～」とのコメントをいただきました…。約2週間の入院でしたが、仕事と子どもの世話に追われる日々はなかなかしんどいものがあり、妻が寝かしつけの本を読みながらそのまま一緒に寝てしまうのも無理はないと感じたものです。

育児を十分担えているとは言いがたいですが、子ども達は今、長男は小学校5年生、二男は保育園の年中となり、早い時間に家に帰ると競うように飛びついて出迎えてくれます。「いつも面倒を見ているのは私なのに…」と妻はむくれています、普段接する時間が短い故のレアキャラ感がそうさせているのかもしれませんが。そんな様子を見た時は、子ども達がいじらしく、妻に申し訳なくも思い、家事・育児をもっと頑張らねばと決意を固めるのでした。(実行できているとは言っていない。)



岡大パパの育児エッセイ

育休を取得して、気づくこと。

職員 和田 典久

岡山大学病院経営・管理課 主任

私には、2歳になったばかりの娘がおります。最近では早起きになり、起床後からお気に入りの玩具をとりだし、「お絵かきする!」など、元気いっぱいです。

そんな娘が生後8ヶ月の時に、私は2週間の育児休業を取得しました。妻は妊娠後に仕事を退職し、今は専業主婦ですが、前の部署(農学部)の皆様が快く送り出してくださいました。その際、先生方にも温かいお言葉をいただき、本当に感謝しております。

さて、娘と2週間ずっと一緒に過ごすのは初めての経験でしたが、毎日一緒にいると、気づくことが沢山ありました。

当時は離乳食をあげていたのですが、オーバーリアクションをするとパクパクと喜んで食べてくれます。ただ、私の食べさせ方が、マンネリになると見抜かれて、食べてくれません…。本当に子供は、小さくても親をよく見ていると、あらためて気づきました。

また、夜泣きのため2時間毎に起きていたので、夜泣き解消に良いと





育児雑誌等に書いてあることを色々試していました。ベビーカーや抱っこひもでのお散歩や、児童館などで、しっかり遊んでみたりもしました。(今では、すっかり常連です。) 結果としては、1年以上にわたって夜泣きが続いたので、効果があったのかは謎?ですが、私がお散歩に連れて行って、その間に妻が一息つける時間が設けられただけでも良かったと思います。

最後に一番良かったと思う点は、妻とゆっくり育児について話すことができことだと思います。里帰り出産後の実家での様子や、『この時、実はこう思っていたよ。』と言われて、あらためて気づかされることも多かったです。なかなか、余裕をもって親子と親同士の時間をつくることができていなかったと痛感しました。

そんな時間がとれた育児休業の制度、これからお子さんが誕生する方は、積極的に活用してみてください。

岡大パパの育児エッセイ

我が家の子育て

職員 平尾 真也

総務・企画部総務課 事務職員

我が家は、現在3歳の息子と0歳の娘、岡大職員の妻(現在:育休中)の家族4人です。子どもたちはとてもかわいいですが、子育てはとても大変だと思います。だからこそ、父親として子育てに積極的に参加することはもちろん、夫として一番頑張ってくれている妻のケアをすることが、自分の重要な役割だと思っています。子どもたちにとって何がいいのかは分かりませんが、子どもたちは親のことをよく見ています。親が心にゆとりを持っていて、子どもたちは自然と生き活きしているように感じますので、うちでは親子ともに楽しめる環境作りを心掛けています。

我が家の日常ですが、休日は家族で外に出掛けることが多いです。出掛けるといっても買い物や公園が主ですが、幸い上の子はどこでも楽しんでくれますし、子どもたちを1人が見て片方はゆっくり買い物を楽しむこともできるので、親のいい気分転換にもなっています。余談ですが、子どもがいてくれると大人でも公園の遊具など満喫できますよ(笑)。また、年に何回か旅行に行きます。子どもが小さい内はコストが2人の頃とそんなに変わらないので、子どもたちへの最低限の配慮をしつつ、家族で思い出作りです。ちなみに今年は夏期休暇を利用して沖縄に行きました。上の子は特にパイナップルパークが楽しかったみたいですが、個人的には美ら海水族館でジンベイザメを見上げる子どもたちの姿が印象的でした。(親バカです

が、子どもたちのきらきらした目に、たくさんの可能性が詰まっているのを感じた瞬間でした。)

近い将来では、妻の復帰に伴う生活の変化や保育園の関係、もっと先では進路など色々気になりそうなこともあります。自分の許容範囲を広く持って、それぞれ楽しむことができればいいなと思っています。

最後に、岡大の各種制度並びに職場の皆様のご厚意には夫婦共々大変助けて頂いており、本当に感謝しています。この場を借りて、お礼申し上げます。



岡大パパの育児エッセイ

感謝

職員 岩瀬 大介

学務部入試課 事務職員

まず、このエッセイへの寄稿のお話をいただき、皆様にも少しでもお伝えできる機会を下さり、感謝いたします。また、皆様にとって少しでもご参考になれば幸いです。

私は、妻・長男・二男の4人家族です。長男は今年5歳になり、二男は8か月目を迎えています。長男は、いつも陽気で歌と踊り、車や運動に本が好きな男の子です。ですが、よく泣き、いつも叱られてばかり。よく笑い、よく泣いて本当に感情が豊かな子です。子どもは、本当に成長が早いなといつも驚かされます。昨日まで、読めなかった字が読めるようになったり、昨日まで、できなかったことができるようになったり。日々の小さな出来事で幸せを感じることができる。素晴らしいことです。しかし、そんな中でも、ダメなことはダメ、良いことは良いと教えようと思っても、叱ってしまうことばかりで、反省させられます。親〇年目という言い方をすることがありますが、本当に子どもと一緒に親が成長させられているんだと常々考えさせられます。

そんな中、今年、二男が生まれました。最初は、長男が赤ちゃん返りをして大変かもと心配していましたが、喜んでくれて心から嬉しく思いました。今では、本当に面倒見の良いお兄ちゃんに成長してくれています。

そんな、みんなが心から生まれてくることを楽しみにしていた二男。どんな男の子かなとワクワクしていました。生まれてくると長男によく似た元気な子でした。



数日の入院の後、退院の日を迎えました。帰ろうとした時、妻から話があるとされました。「○○○(二男の名前)…。生まれつき耳が聞こえないかもしれないんだって…。」頭が真っ白になりました。妻曰く、新生児スクリーニングがパスできなかったらしい。すぐに、別の病院で精密検査を受けるようにとのこと。仕事も手につかず、二男のことばかり考えていました。「なぜ、うちの子が…。」正直、受け入れられませんでした。妻と毎晩、毎晩泣きました。泣いて泣いて。涙が止まりませんでした。それから、2か月後ようやく再検査を受けられ、セカンドオピニオンも受診しましたが、結果は変わりませんでした。医師たちから、少しでも早く補聴器を装用した方が良いと言われました。早ければ早いほど、言語への影響が少なくなる可能性が高くなるそうです。その後、補聴器をつけることになり、今では家でも車の中でも、少しずつ装用時間が延び、今では寝る時以外はつけられるようになりました。補聴器をつけると、大きな声で話しかけると振り向いてくれたり、笑ってくれたり。少しずつ反応も増えてきました。本当に嬉しいですね。そのほんの小さな幸せ、当たり前なのが当たり前に見えること。それが何よりも幸せなんだと二男に気付かされました。

今、当たり前になっていることは、本当は当たり前ではなく、実は奇跡的なことなんですよ。本当に“感謝”すべきことなんですよ。これから先、二男自身も長男も親も色んなことが待っていると思いますが、小さな幸せを噛みしめ、“感謝”の気持ちを忘れずに家族で乗り越えていきたいと思っています。

また、今日までご支援いただいた皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。最後になりますが、このような機会をいただいたこと、最後まで読んでいただき、本当にありがとうございます。今後とも、家族共々何卒よろしく申し上げます。



岡大パパの育児エッセイ

私が育児で感じたこと

職員 堀川 皓弘

岡山大学病院総務課 事務職員

私は、採用7年目の事務職員です。同じく事務職員をしている妻と4歳の息子と暮らしています。今回は、私が育児で感じたことを綴ります。

私は、昔から子供と遊ぶのが好きで、大学生の時には、野外活動ボランティアリーダーとして、5歳児から小学校高学年までの子供達の野外活動、グループ活動に関わっていました。子供の扱いには慣れていましたが、あくまで幼児以上の子供への経験で乳児の扱いは未経験でした。

息子は、3,568グラムと比較的大きく産まれてきたのですが、手や足はやはり赤ちゃんなので小さく、骨が折れてしまうのではないかと思い、触るのがとても怖いと感じていました。そのため、だっこやおむつ替えが下手で、妻からお叱りをよく受けていたことを覚えています。(新米パパの皆さん、そうそう骨は折れないので勢いが大事です。)

代表的な育児の悩みの種の「夜泣き」ですが、息子はよく夜泣きをする方で、2時



間に1回の大泣きを1歳になる前まで続けました。泣き声があまりにも大きかったので、妻と私の2人とも目が覚めてしまうほどでした。この当時は仕事も忙しく、夜は睡眠も確保出来なかったため、フラフラだったことを記憶しています。(夜泣きで悩まれているパパの皆さん、我慢です。いずれなくなります。)見かねた妻が、大声でなく息子をつれ、静かに別室に行って世話してくれた時は、ただ感謝、感謝、感謝でした。



そんな息子も4歳となり、補助輪なしの自転車に乗れるようになりました。自転車の練習をしている時は、幼い時に父や祖父に支えてもらっていたことと重なりました。息子が自転車を誇らしげに進めている姿は目に焼きついています。

この他にも綴りきれないほどの思い出があります。子供の成長は本当に早く、大人のちょっとした一言でも大きく育ちます。これからも色々な行事に参加し、成長する息子の姿をたくさん見ることが楽しみで仕方ありません。(先輩パパの皆さん、中学生ぐらいになると会話もなくなってしまうのでしょうか。)

最後にパパの皆さん、何事も感謝の気持ちを持って育児を楽しみましょう!!あと子供だけでなく、『アモーレ』も大切に!!

岡大パパの育児エッセイ

育児はオペレーションか？

職員 白神 裕之

岡山大学病院 看護師

「なんで子供がいる人は毎日大変です、地獄ですって言うんだろうね。望んで産んでるはずなのに。もっと楽しいことを教えてくれたら結婚しよう、子供を産もうと思うのにね。」友人が同窓会で皆の近況を聞いてるときに呟いた言葉だ。

岡大病院で働き始めて8年ほどが経つが、病院を移ってきてすぐに長男が生まれ、まだ仕事も覚束ない私に、出産前後には勤務で配慮していただき無事出産に立ち会うことができた。寝る間もない陣痛に苦しみ、耐えぬいた妻を見て、なんて男は無力なんだと思ったものである。

妻も岡大病院で看護師をしているが、1人目、2人目の出産後は日勤フルタイムで復帰し月2回夜勤もし。3人目が生まれた現在は育児短時間勤務を利用している。いずれもお互いの上司や共に働くスタッフにはいつも気遣いをいただいていた。

このように同じ職業で同じ職場となると家事も育児も50:50が究極の理想なのだろうか、とも思ってはいるが実際は妻に頼っている部分が多いのが現実である。ただ、中でも私が考えるようにしているのは「今の生活において私ができることと言えば…」ということである。「子育てにおいて男ができることと言えば…」などと言うと「ワンオペ育児」という言葉が世の母親の間で広がる現代では少し語弊を招くかもしれないのであえて「今の生活」「私」としている。もちろん「いわゆる育児」こそが肉体的にも精神的にも多大にエネルギーを

使うことであるということは特に妻が夜勤をする際に多少なりとも経験をしたが、それはオペレーションではなく生活の一部である。今の生活を家族で目一杯楽しむために自分が何ができるかを考える。それは掃除や洗濯、料理かもしれないし、おむつを替えること、子供と遊ぶこと、寝かせること、はたまた仕事を頑張ることかもしれない。そこにオペレーションはなく、日々の生活があるだけ。家族の一員として今私に何ができるか。

と言いつつ現実はそんなに簡単ではないので日々奮闘している。子育てはとっても大変だけど、それ以上に楽しいことがたくさんあるから。





石川遼君は 「聴き流すだけでいい」と 言っていますが

大学院教育学研究科 教授(次世代育成支援室長) 寺澤 孝文

子どもも小学3年生ぐらいになると手がからなくなってきましたが、今度は勉強が気になってきます。そこでここでは筆者が専門とする、記憶と教育ビッグデータの研究からわかってきた、勉強に役立つ新しい事実を紹介します。

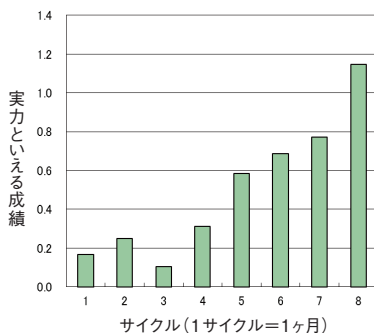
記憶というのと1つと思われていますが、勉強の効果は、2種類の記憶として残ります。1つは、一夜漬けの学習効果である「すぐ消える」**顕在記憶**です。もう1つは、語学や資格試験等の実力の基盤となる「消えない」**潜在記憶**です。「記憶はすぐ消える」といわれますがそれは顕在記憶で、潜在記憶は消えません。記憶は消えないというと「えっ?」と思われるかもしれませんが、それは潜在記憶の測定がこれまで難しく、知られてこなかっただけです。最近注目されている**教育ビッグデータ**の研究で、自覚できない実力レベルの学習の積み重ねが初めて見えるようになりました。

図は、1ヶ月に1回のペースで、英単語を学習した高校生の成績の積み上がりを表しています。1ヶ月前に1度だけ学習した単語など思い出せるはずありませんが、教育ビッグデータを分析すると、自覚できないレベルで

実力が上がっていく様子がきれいに描き出せるようになりました。

さらに重要なポイントは、図は、1人の高校生の成績の変化を表しています。岡山大学の新システムにより、このように、小学生から大学生までの学習者ごとに、実力レベルの成績をグラフにして、フィードバックできるようになりました。このような結果を子どもにフィードバックすることで、学力低位の子ども意欲と基礎学力を確実に向上させられるようになりました。勉強してもなかなかその成果を実感できない子どもが、図のような

1ヶ月に1回だけの学習で積み上がっていく
英単語の語彙力(最高点は3点)



自分のグラフを手にして、“やればできるようになる”ことを実感し、先生や保護者が自信を持って褒められるようになったわけですから、意欲が上がるのは当然です。そして、ほぼ“どの子も”成績は上昇します。

岡山大学に集約され始めた大量の教育ビッグデータを解析すると、これまでの勉強法の誤りがいろいろと明らかになり始めました(注)。

まず、1日に漢字や英単語を反復学習する回数についてです。学校の英単語テストのため、高校生は前日に1つの単語を10回も20回も勉強して試験に臨んでいます。次の日のテストでは、100点が取れるかもしれませんが、それは前述した顕在記憶による成果です。同じ学習をして1ヶ月後に残っている実力(潜在記憶)を測定すると、5回を超える繰り返し効果は成績に反映しないことがわかってきました。つまり、1日に5回を超える英単語の反復学習は、実力テストには意味がないということです。逆に、1日に同じ単語を学習する回数は減らし、その分異なる種類の単語を覚えられるように、長期間でまばらに学習するスケジュールを組むと、想像以上に効率的に英単語の習得ができる可能性があります。また英単語の本を買ったら、1つ1つの単語にあまり固執せず、サラサラッと全体を通して見直す学習を繰り返す方法がお勧めです。現在、徳島県の実証実験事業として高校生700人を対象にe-learningを提供

していますので、面白い結果が出てくると思います。ちなみに、漢字の難しい読みのドリルでは、1日当たりの学習回数は3回を超えると効果がないという結果が出ています。

もう一つだけ、現在の学習法に異を唱える結果を紹介します。それがタイトルにある、聴き流すだけでよいのか?という問いへの答えです。一夜漬けでテスト勉強をするなら、覚えようとしなければよい点は取れません。しかし、それは実力テストの成績(潜在記憶)には当てはまらないのです。つまり、覚えようとするか、しないかは実力にはさほど影響しないということです。それを受けて、私たち研究グループの英語教育の研究者は、「覚えようとしなさい」学習を提唱しようと言いつつ始めています。まじめな子どもほど時間をかけて覚えようとしませんが、結局のところ、実力に影響するのは、遭遇するタイミングと回数のみです。覚えようとせず気楽に英単語を見直す程度でも、確実に実力は上昇していきます。石川遼君の言っていることは正しいといえますが、現時点で企業さんがどの位身に着くということをやったら問題になります。なぜなら、その予測は既存の技術では絶対に導けないからです。

暗記学習はさっさと終わらせて、野山や、友達にもまれて遊ぶ時間を大切にしないと、将来、創造的な活躍はできないという理論的予想もあります。特に小学校時代は大切です。

(注) 詳細は、「英語教育学と認知心理学のクロスポイント」(北大路書房、2016年)をご参照ください。

	男性	男女とも	女性
妊娠			
出産前 8週間～	★育児参加休暇	★研究支援員事業（教員を対象とした制度） ★キャリア支援制度（病院臨床業務に携わる医師を対象とした制度）	★通勤緩和 ★休息補食の時間確保
出産前 6週間～			
出産	★配偶者出産休暇 (出産に係る入院等の日より取得可能)	★育児休業（男性は出産予定日から取得可能）	★深夜勤務および時間外勤務の制限 ★健康診査等のための時間の確保 ★業務軽減等
～産後 2週間			
～産後 8週間		★子の看護養育休暇	1 産前休暇 ★ 2 産後休暇 ★
～生後 6ヶ月		★保育休暇 ★育児部分休業／育児短時間勤務／勤務時間の割り振り変更 ★深夜勤務及び時間外勤務の制限	
～1歳		★育児支援事業（研究者限定。男性利用者は要相談）	3 育児休業 ★
～3歳		★ベビシッター派遣事業補助券の発行	
～小学校 就学前			
～小学 3年生			
～中学 就学前			



※この図は常勤職員をモデルとして作成しています。
★・・・非常勤職員（短時間）も利用可能な制度（条件付きのものを含む）



1 産前休暇

8週間(双子以上の多胎妊娠の場合は14週間)以内に出産する予定である女性職員が申し出た場合は、出産日までの申し出た期間が特別休暇として付与されます(非常勤職員の場合は、無給の休暇となります)。

2 産後休暇

女性職員が出産した場合は、**出産日の翌日から8週間を経過するまでの期間**(産後6週間を経過した女性職員が申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除きます。)が特別休暇として付与されます(非常勤職員の場合は、無給の休暇となります)。

3 育児休業

職員のうち、3歳に満たない子の養育を必要とする者は、**当該子が3歳(非常勤職員等の場合は条件により最大2歳)**に達する日まで、育児休業を取得することができます。

その他詳細については以下WEBサイトをご確認下さい。

http://www.okayama-u-diversity.jp/life-event-support/childcare_leave



ご利用頂ける施設



※認可外保育園

教職員等の
お子さまのための
保育施設です！

☎ 086-235-7522

場 所：鹿田キャンパス
利用対象：生後6ヶ月～5歳未満児
定 員：90名
開 園 日：月～金曜日
開園時間：7時30分～18時00分
(延長保育は最長20時まで)



長期休業期間中に
利用できる
学童保育施設です！

☎ 086-251-7303 (人事課)

場 所：津島キャンパス
利用対象：小学校1年生～6年生
定 員：60名
開 園 日：小学校の長期休暇(春・夏・冬)
開園時間：7時30分～19時00分



病中・病後の
お子さまを
お預かりします！

☎ 086-235-7301

場 所：鹿田キャンパス
(岡山大学病院内)
利用対象：生後6ヶ月～小学校6年生
定 員：5名(事前登録制)
開 園 日：月～金曜日
開園時間：8時00分～17時30分

その他詳細については以下WEBサイトをご確認下さい。

<http://www.okayama-u-diversity.jp/life-event-support/facility/>



あとかき

次世代育成支援室 室員

片山 美香 (教育学研究科 准教授)

あたたかなパパ目線に見守られて、お子さんが力強く育っておられる姿が印象的でした。いわゆる“子育て期”は期間限定です。親、そして室員の一人として、全ての親が、子どもを中心に据えた生活を安心して実現できる環境づくりが必要と考えます。

樋口 輝久 (環境生命科学研究科(環) 准教授)

国をあげて「働き方改革」が推進されている中、それに逆行するかのよう岡山大学における勤務環境は益々厳しいものになってきています。“今”しかない子供との時間を大切に過ごしたいと思うのは私だけではないと思います。

川畑 智子 (岡山大学病院 助教)

職場の男女共同参画が話題になっている昨今、ご家庭で子どもを育てるための男女共同参画は進んでいるでしょうか。男性も育児や家事を担うことは非常に喜ばしいことです。そのチャレンジは、近い将来どの家族も抱える病気を乗り越えるための礎となり、家族や職場の双方に恩恵をもたらすと信じています。

柴田 裕巳 (研究交流部産学連携推進課 総括主査)

子育てしやすい職場の環境づくり、まわりの人達の理解が大切だと感じます。「家族が1番」であることが尊重される職場・社会になるといいですね。このエッセイ集がこのことに少しでも役に立ちますように。

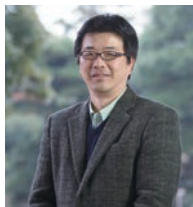
井田 敏明 (大学院医歯薬学総合研究科等総務課 主査)

本当はもっと育児に関わりたくてもなかなかできない“パパ”も多いと思います。今回のエッセイ集にはいろいろな“パパ”のお話があるので、参考になるもの、共感できるものもあったのではないのでしょうか。このエッセイ集が、今仕事と育児の両立に悩んでいる“パパ”がコツをつかむ一助に、そして、これから“パパ”になる方がいずれ直面する育児への理解を深めるきっかけになればいいなと思います。

関野 浩江 (岡山大学病院看護部 看護師長)

仕事と子育てに奮闘しているパパさん達の活躍ぶりは、自分の時代を振り返ると羨ましくもあり、また皆様の頑張りによりエールを送りたいです。育児支援のある職場環境作りが本当に大事ななと感じました。

編集後記



寺澤 孝文

次世代育成支援室長／大学院教育学研究科 教授

今回のエッセイ集の企画とは別ですが、次世代育成支援室からたちあがった「子から親へのエール論文」という企画があります（「エール論文」で検索してみてください）。高校生と大学生から「仕事を続けてくれてありがとう」といった論文を募集し、岡山県知事賞等が授与される企画です。その審査を毎年引き受けていますが、毎年心を打たれる論文に出会えます。そこでは、両親が医師の家庭で育った高校生や、ひとり親家庭で育った大学生など、子どもが経験した様々な出来事が赤裸々に紹介されています。毎回、こんなにも多様な家庭があるのかと驚かされるとともに、自分たちは他人の家庭のことをほとんど知らずに生活していることを実感させられます。ですが、どの子どもも、苦勞している親の姿をしっかり見て、親へエールを送っています。今回のエッセイ集は親の視点から、どちらかといえば楽しい思い出の方が多く書かれていると思います。楽しい思い出の背後には、きっと大変な苦勞が隠れていて、この紙面では到底書ききれなかったと思います。ですが、その苦勞が子どもには大きな糧になっていることは確かだと、エール論文を読んでいると思えます。その意味で、このエッセイ集と一緒に、エール論文を読まれるとよいと思います。私もこのエッセイ集にあるような思い出を手にできるよう、頑張って仕事と子育てを続けていこうと思います。

編集・発行元

国立大学法人岡山大学

ダイバーシティ推進本部次世代育成支援室

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

TEL: 086-251-7011 FAX: 086-251-7033

E-MAIL: diversity@adm.okayama-u.ac.jp

Webサイト: <http://www.okayama-u-diversity.jp/>



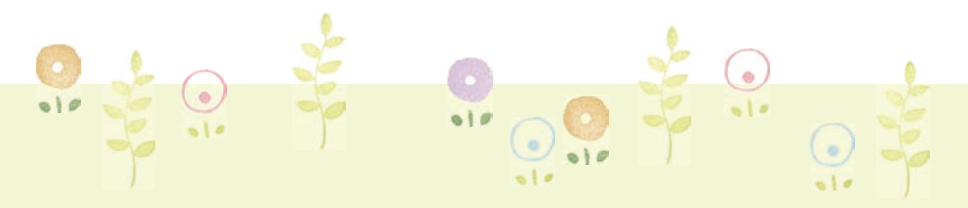
平成30年2月 発行



岡山大学は
パパの育児を
応援します



岡大パパの育児エッセイ集



編集・発行

岡山大学 ダイバーシティ推進本部
次世代育成支援室